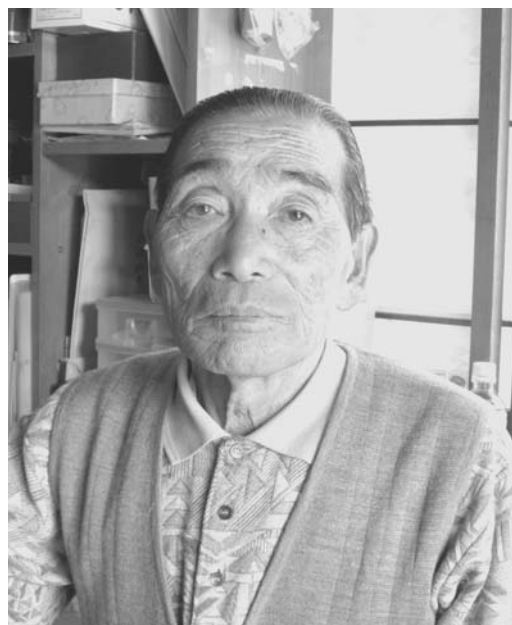


アップ

⑧

伝統神楽「鳥舞」を 後世に伝えたい



二階堂 五郎さん (77歳)
石越町・遠澤

「神楽を舞うのが大好きで、22歳のとき長下田神楽保存会に入会しました」と話す二階堂さん。
二階堂さんは、昭和57年から、石越小学校大運動会の恒例種目となっている鳥舞の指導を行っており、これまで指導をした児童は約2,800人を数えます。

指導を始めたきっかけは、二階堂さんが石越小学校に業務員として働いていたときでした。運動会の種目を検討していたとき、鳥舞を紹介したところ、早速採用となったことが始まりです。
「当時は、まつりやイベントなどで舞を披露していましたが、小学生が神楽を舞うことは珍しいことでした。ほかまなども無くほかの町まで借りに行ったり、鳥兜を制作するにも夜遅くまですべて手作業で作りました」と長年愛用している鳥兜を眺めながら当時の模様を話しました。
現在は長下田神楽保存会副会長として、後輩の指導や鳥舞の普及活動に力を入れている二階堂さん。
「約百人の児童たちを一斉

に指導するのは大変ですが、広い校庭いっぱいには舞う姿を見ると感無量になります。これからも、多くの人に神楽の良さを知ってもらい、伝統芸能を後世に伝えるため後継者育成に力を入れていきたい」と抱負を語りました。



鳥舞を披露する二階堂さん

文芸コーナー

短歌

魅せられて手塩にかけし寒蘭の
初花清し匂いすがしく

山形昭一郎(津山)

待ち受けし女の孫生れて抱きをれば
我が遣伝子の伝はる思い

佐々木せい子(追)

村が町に町から登米市と名が移り
八十路を生きて市民となりぬ

山野 鳩子(追)

晩夏なれど日中に焼ける暑にも
夕べは虫の鳴く声を聞く

佐藤えみほ(米山)

長年に更新親しき免許証
返上なせば記念品賜わる

千葉たかお(米山)

何事もなきは淋しも夕暮れの
風にはためく鯛やき屋の旗

折居由紀子(米山)

嵐さり夜明け待つよな大蟬が
高々と啼く紫の夜明け

阿部ふみ子(米山)

秋牡丹花芽見つけし喜びを
「話す友との」ひととき昏れる

主藤 恵子(米山)

掃き寄せし落葉の中より「ピンピン」と
秋の兆しを虫達に想う

水野トヨコ(米山)

テレビにて栗駒の紅葉放映せるに
行けば早かりいわかがみ平

津花 秀喜(米山)

俳句

晴れ渡る空に白鳥渡り来る

猪股トミ子(東和)

木の葉浮く冷き流れ胡桃洗ふ

及川 淑子(東和)

サークル紹介

⑧

及川カラオケ愛好会



会員の歌をみんなで聴いている愛好会の皆さん

愛好会は、平成6年に全日本音楽互恵審査協会に加入しているメンバーを中心にサークルとして立ち上げ、活動を始めました。

現在会員は10人で、及川さんは代表兼師範役。毎週土曜日の午後7時から南方就業改善センターで活動しています。「歌を通してふれあいやつながりを深め、健康で楽しく生活を送ることを目的に活動をしています」と及川さんは話します。

の皆さんは「師範の指導のおかげで、歌うことが以前より好きになりました」と話します。

休憩時間には、持ち寄ったお茶やお菓子を食べながらコミュニケーションをとっています。

毎年、花菖蒲まつりや文化協会の催し、全日本音楽互恵審査協会主催の全国大会に参加して練習の成果を披露しています。

「自分の歌い方の良い部分を伸ばし、悪い部分を直すことで歌をもっと好きになつてもらいたい。これからも歌をみがいて心をみがくをモットーに活動していきます」と抱負を語ります。歌が大好きな人、歌に興味のある人は、及川さんまでご連絡ください。



代表 及川 登喜男さん
ときお 登喜男
南方町・一ノ曲
連絡先 0220 (58) 4222

●●文芸作品募集●●

俳句、短歌、川柳いずれか1カ月1作品。締め切りは毎月10日。住所、氏名、電話番号を記入してご応募ください(作品には必ず読みがなを付けてください)。応募者多数の場合は抽選で掲載しますのでご了承ください。

【あて先】〒987-0511
登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
登米市総務部総務課広報係
☎0220 (22) 2090
FAX0220 (22) 9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp

※応募者多数のため抽選で掲載しました。ご了承ください。

古稀なれば厚化粧してレクダンス
欠席の代筆届く傘寿の会
会の星文学少女は九十歳
田満に市町村合併天高し

佐藤よしの(石越)
武内 弘也(中田)
千葉 青柳(迫)
桜山 南仙(迫)

川柳

行く秋や北上川の曲大らかに
神無月北上川縁寄せし舟ひとつ
木犀の俄に香る作場道
黄金穂の沃野貫く大河あり
葭實かけ匂ふ鰻の赤幟
草紅葉飼犬顔を埋めおり
虫の秋気構へもなく生きておる
行く秋や晝一筋日射しのぶ
逝く秋や葬家の札の楷書書き
栗おこわ山家育ちの妻の自負
秋澄むや郵便受けに音がして
四人目の孫七五三疲れけり

及川 裕子(東和)
赤松 興(東和)
二木ゆきこ(中田)
大坂 京治(中田)
熊谷 慧(中田)
酒井みつ子(中田)
菊地 ヤイ(中田)
春日 悦子(東和)
二木ゆきこ(東和)
及川 寛志(東和)
大坂 十縫(東和)
山田 繁(登米)